



筑波技術大学に 期待すること

筑波技術大学長

大越 教夫

×

全国盲学校 PTA 連合会 会長

川越 啓子氏

×

全国盲学校 PTA 連合会 事務局長

坂本 俊二氏

大越：今日は、全国盲学校 PTA 連合会・会長の川越啓子様、事務局長の坂本俊二様をお迎えしまして、対談を行うことになりました。川越さん、坂本さん、お忙しい中ありがとうございます。

国立大学は、各大学の機能強化に向けた取組などを広く社会にアピールし、財政支援の充実などについて理解増進を図ることが必要であります。外部有識者の方々に対談を行い、その内容を「国立大学フェスタ 2015」に合わせて本学の HP で公開し、本学の存在意義等をアピールしていきたいと思っております。テーマは「筑波技術大学に期待すること」として、筑波技術大学に求める人材像、筑波技術大学の取組とその成果など、自由に対談したいと思いますので、よろしくお願致します。

川越：今回このお話を頂いて、パンフレットや大学紹介ビデオを見させて頂きました。大変恵まれた環境の大学だということを知ることができました。実際、盲学校の卒業生で、現在、筑波技術大学の 2 年生と 4 年生の方に話を伺ったところ、本当に充実した大学生活だということを知りました。

できればもっといろいろな方に知ってもらいたいのではないかと思います。聴覚、視覚障害者のための国立大学ということで、障害者に特化した高等教育が行われているわけですが、障害を持った子の親としてはとてもありがたいことだと思っております。視覚障害があるという情報が閉鎖され、出来ないことがたくさんあると思うのですが、筑波技術大学ではいろいろなバリアを取り除いて教育されていると思います。その中で、もう少し具体的に視覚障害の学生に対して、「どのような教育をされているか、どのような工夫をされているか」なども含めてお聞かせ下さい。

大越：本学は、将来、専門的な職業人として社会で活躍できるように視点を置いて教育を実施しています。学生の入学時の学力の個人差が大きいため、入学後、基礎的なレベルからかなり高い応用レベルまで幅広く行うことが要求されます。特に、保健学科鍼灸学専攻、理学療法学専攻では、国家試験に合格できないと希望の職業につけないという現実があり、全員が合格できるよう指導しています。今年度の国家試験の合格率は、理学療法士 100%、あん摩マッサージ指圧師試験は 100%、はり師、きゅう師試験は 70～80% 台で、比較的高い合格率を維持しています。はり師が不合格であっても、あん摩マッサージ指圧師の免許を取得すれば就職はできています。

本学の教育の支援の目玉にアカデミック・アドバイザー制度があります。これは、通常のクラス担任以外に、教員 1 名につき学生 3 名程度の割合で、学生の学修支援、生活相談にのっております。また、はり師・きゅう師国家試験対策として補習スタッフを用意して、「ここで一緒に勉強しましょう」と自主学習室に学生を集めて学習を応援しています。

教材は、点字、触図、拡大文字、DAISY、読み上げソフトなど、学生の要望に応じて満足できるよう用意しています。また、24 時間開放の共同学習室にパソコンを完備し、学生はいつでも使えます。さらに、専門的な医療実習機器やリハビリテーション機器も十分に揃えており、病院等の医療機器を学生時代から経験できるようにしています。

また、社会で活躍するためにはコミュニケーション能力が重要ですので、海外留学経験、スポーツ大会参加、課外活動、ボランティア活動、企業インターンへの参加など、いろいろな経験を積ませることでコミュニケーション能力を上げたいと考えております。

川越：入試の方法が複数あるようですが、その入試の方法については、どのようなものがあるのですか。また、入学したい学生が全国から集まってくると思うのですが、その辺りはいかがでしょうか。

大越：保健科学部では、推薦入試、社会人入試、アドミッション・オフィス入試、個別学力検査（前期）を行っております。社会人入試については、一旦社会に出た後から視力が低下し仕事が出来なくなる人も多く、幅広い年齢層の受験者があります。

入学する学生はほぼ全国から集まっていますが、入学者の確保が大きな課題になっています。どうしても全国の盲学校の理療科と競合してしまうので、鍼灸学専攻は入学定員



全国盲学校 PTA 連合会 会長

川越 啓子氏

を確保するのに少し苦労をしております。理学療法学専攻では定員は確保できていますが、学外病院での臨床実習をクリアするにはかなりのレベルが要求され、国家試験の問題も難しくなっており、卒業までの道のりは決して平坦ではありません。情報システム学科は、今のところは定員の約 2 倍の受験者が集まっています。

坂本：私の場合は、全国盲学校 PTA 連合会事務局長以前は、盲学校の教員を 16 年、校長を 9 年やりまして、盲学校の経験が 25 年、教員生活の半分以上を盲学校でお世話になりました。その関係もありまして、今、事務局をお手伝いさせて頂いております。盲学校の生徒の中には、視覚障害だけでなく、他の障害を合わせ有する子供たちの割合が増えています。実際、筑波技術大学では視覚障害と合わせて他の障害を持っている学生さんはどれくらいいらっしゃるのですか。

大越：実際、多様な障害の学生が入学しています。正確な人数は分かりませんが、軽度の難聴があり補聴器を付けている学生さん、内部障害で人工透析している学生、車椅子を使っている学生さんもいます。トイレを車椅子対応にするとか、段差を解消するなどのバリアフリー化を進めております。入学時には全く分からないのですが、発達障害や精神障害がある学生さんもいるようです。ただ、本人がオープンにはしてほしくないという希望もあり正確な数字は分かりません。

坂本：弱視学級というのがありまして、盲学校に進学するケースもあるけれど、そのまま普通の中学校、高等学校へ進学するケースがあります。私が現職時代に調査したところでは、



全国盲学校 PTA 連合会 事務局長
坂本俊二氏

視覚障害がありながら盲学校や弱視学級のお世話にならずに通常の学級に在籍している児童生徒が意外と多く、弱視の子は分かりづらい。そういう盲学校以外の生徒が入学される割合というのはどれくらいあるのでしょうか。

大越：全体では盲学校出身が4~5割、一般校が5~6割です。鍼灸と理学療法は、盲学校以外から入学してくる割合が多く、逆に情報システム学科は7、8割が盲学校出身です。

川越：盲学校の専攻科と大学の鍼灸学専攻は、国家資格は一緒ですけれども、大学を卒業したということで学士になるわけですが、専攻科との違いというのは何ですか。

大越：盲学校の専攻科は3年制で、本学は4年制なので学士の資格が取れます。また、大学は学生が全国から集まって来ますし、幅広い教養科目に触れ、スポーツ等を通して近隣の大学や社会人と交流したり、海外短期留学等のイベントも多いので、より社会性が身につくのではないのでしょうか。

川越：盲学校の卒業生から聞いたのですが、志望した理由が何かという就職率がほぼ100%だということで、実際、卒業生が活躍されている就職先はどんなところがありますか。また、実際、企業でどんなお仕事をされているのですか。

大越：情報システム学科であれば、比較的大きな企業で、電子機器、IT関連会社などが多いです。また、私立大学の事務職に就いた方もおられます。職種は、システムエンジニア、コンピューター関連の仕事、人事や広報などの事務職、コンピューター業務など、本人の力量で適材適所なのだと思います。理学療法学では多くが病院か老人介護保健施設に就職します。

鍼灸では、治療院、医療機関、企業のヘルスキーパー、盲学校教員になるために進学など、幅広い進路をとっております。

坂本：附属東西医学統合医療センターでは、超高齢社会ということで、いろいろ活躍が期待されますが、鍼灸、理学療法分野で大学が他の病院などと協力して研究を進めるなど、何か展望はあるのですか。

大越：統合医療センターは、8つの診療科の診療部門、鍼灸施術部門、リハビリテーション部門があり、鍼灸施術、漢方、神経内科、整形外科、外来リハビリテーションなど、他の医療機関からの紹介も多く、医療の地域貢献にも重要な役割を果たしています。また、MRI、CT、をはじめ、サーモグラフィや脳波など、どれも比較的最新の機器を導入しており、周辺の医療機関からの検査依頼も結構来ております。

病院との連携ですが、今のところ正式に大学と周辺の病院との連携事業はありませんが、医師、鍼灸師の個人的な研究レベル、研究会・研修会レベルでは筑波大学病院や周辺の医療機関との連携を日常的に行っています。今後は、筑波大学と本学で、医学部での東洋医学・鍼灸の授業や病院での外来施術に関して連携した事業なども考えております。

坂本：最近では盲学校卒業生が、治療院をはじめ病院や特別養護老人ホームなどで採用されてきていますが、そういう人たちが例えば大学に行って研修を受けるような機会は得られますか。働きながら週1回とか、将来、ニーズが高くなると思いますので、そういうことができるといいなと思っています。

大越：現在、医療センターの研修制度は、新卒の研修制度と既卒のある程度経験を持った人の研修制度と2つに分かれています。新卒は月曜から金曜まで毎日研修していますが、臨床経験がある人には週1、2回という形の研修制度もあり、一般の鍼灸院に勤めながらでも研修できる体制にしています。

川越：東京オリンピック・パラリンピックということで、障害者スポーツが注目されていると思いますが、クラブ活動、課外活動について、どのような状況なのか教えていただけますか。

大越：本学の春日キャンパスには体育専門の教員が2名おり、近くの筑波大学に体育専門学群もあり環境的に恵まれ、ブライントサッカー、柔道、フロアバレーボール、ゴールボール、陸上、水泳、サウンドテーブルテニス等の障害者スポーツも盛んです。特に、ブライントサッカーはマスコミにも注目されています。今後、パラリンピックに向けて障害者スポーツの研究予算をいただいて、サポートする人を増やせないかと考えています。また、例えば鍼灸のサークル活動では自分たちの専門であるあん摩・マッサージを活用してスポーツイベントや災害地等でボランティア活動を行っています。理学療法ですと「健康フェア」「よさこいソーラン」など、学園祭に向けて張り切って活動しています。

川越：寄宿舎生活のことを伺いたいのですが、小中高の寄宿舎を私たちは経験しているのですが、寄宿舎の先生が、すべての日常生活の指導をしてくれます。大学ということで自立出来る方が入っていらっしゃると思いますけれども、そこまでできない方には多少手取り足取りということを伺いましたが、どういったことをしていただけるのでしょうか。

大越：寄宿舎に関しては、盲学校時代と異なり自分でやら

なくてはいけないので、全盲の方でも自立するのが原則です。ただ、最初のうちはアカデミック・アドバイザーや支援担当教員を中心にチームを組み、支援計画を作成し、家族あるいはボランティア、学生アルバイトなどの力を借りて、特別にやってもらうこともあります。最初だけ、お風呂や教室への移動、近くのコンビニまでの歩行訓練などを支援しますが、多くは1~2週間経てば大体出来るようになりますね。

坂本：盲学校というのは意外と一般の社会の中で知られていない現状があります。例えば、盲学校という見えない子供たちというふう理解されていますが、実際はそうではないですよ。盲学校でも非常に理解、啓発が大事で、全国盲学校野球大会など、テレビ、ラジオで取り上げて頂けるようアピールしています。

筑波技術大学に関しても、一般の方にはあまり知られていない、盲学校の教員の中でも知らない人がいます。国立大学であるということさえも知らない。筑波技術大学も出来れば盲学校に出掛けていただいて、出張授業や学生や先生方が一緒になってこう勉強をしているのだということが分かるイベントをやっていただくよのとはと思いますが、いかがでしょうか。

大越：貴重な御意見ありがとうございます。本学が一般校や盲学校に十分知られていないということは、ある意味で危機感を感じています。ここ数年、何とか知名度を上げようと、出張説明会、出前授業、大学説明会をさせていただいております。全国の盲学校に手紙を出して、出前授業を希望する所はないですかということをお伺いしています。ただ、盲学校に手紙を出しても、それが父兄の方にまで伝わらないのではないかと考えています。そこで盲学校の高等部の1年生から3年生の生徒さん人数分の大学案内を「各父兄の方に渡してください」と送っています。少しずつ本学の存在を知ってもらうきっかけになってきているのかなと思います。

坂本：盲学校の理学療科の先生というのは、現在のところは8割以上が筑波大学理学療科教員養成施設の出身ですが、少しずつ大学からも盲学校の先生になる方もふえているのかなと思います。養成施設との連携とか、あるいは教員課程設置を目指す今後の見通し、その辺りはどうなのでしょう。

大越：理学療科教員養成課程創設は、本学の開学当初からの希望です。理学療科教員も複数施設で養成し切磋琢磨することが必要だと思います。本学としては、すぐにでも設置したいのですが、制度上の問題もあり簡単ではありません。今後も引き続き理学療科教員養成課程設置に向け働きかけを行っていきます。

坂本：現在、一般の教科の教員になっている方で視覚障害者の方がいらっしゃると思いますが、情報システム学科から高等学校の情報の先生になっているケースはあるのですか。

大越：情報の教員免許、鍼灸、理学療法では保健の教員免許が取れますが、開設の日も浅く、中部部や高等部の教員になった方はまだおられません。鍼灸学専攻では、筑波大学理学療科教員養成施設に進学後、理学療科の教員になる例が毎年2、3名おられます。今後、保健の普通免許の取得は、盲学校の専攻科の教員となった場合、自立教科(理療)の教員免許だけでなくプラスアルファの資格になるのではないかと考えています。

川越：大学院は設置されて5年ぐらいですが、どのような学生が大学院に進学されるのですか。また、大学院に進学された方々の就職先はどうなっているのですか。

大越：鍼灸、理学療法に関しては、一旦社会で働いてから「大学院で研究をしたい」と希望する方が比較的多いようです。医療系の職場では学会参加の機会も多く「自分も研究したい、学会発表をしたい」と思うようです。就職先としては、鍼灸では大学の教員や治療院で活躍している方がいます。理学療法では、病院に戻り理学療法士を続ける方が多いようです。情報システムでは、将来的には企業に勤めるけれども、その前に大学院で研究をしたいということで入ってくる方がいます。大学院修了になると企業の要求度も高くなりますが、それを克服し大企業に就職しています。

また、鍼灸に関しては、最近増えているのが海外からの留学生です。現在もモンゴルから2名、ベトナムから1名来ています。今後も海外からの留学生の受け入れを拡大していきたいと考えています。

最後になりましたが、本日は貴重なご意見ありがとうございました。今、大学を取り巻く国の財政状況は厳しいですが、教育環境を更に高めて、学生さんが安心して学修し、全員が「筑波技術大学に入ってよかった」と思えるような大学を目指していきたいと思っています。皆様のご期待に添えますように発展していければと思っていますので、今後ともご支援の程、よろしくお願い致します。



筑波技術大学長
大越 教夫